

【雨だれ石を穿つ】

雨だれの落ちる下の石には、くぼみが出来ています。水滴が石に穴を空けたのです。言うまでもなく石は堅く、水には全く堅さが見られません。その水が、それも一雫の水が、堅い石に穴を空けたのです。

ほんのわずかなことでも、同じことを長い間継続して反復していると、いつかは必ず大きな仕事を成し遂げるものだ、という意味の教訓です。人間は、能力よりも、才能よりも、根気の方が大切だ、ということをよく表わした教訓だと思います。

世の中には、よく次から次へと仕事を変える人がいます。それでうまく成功したとしても、世の人々から感謝され尊敬されることはまず少ないと思います。その道 30 年、いや 40 年、50 年と同じ仕事をこつこつと続けた人の仕事に比べたら、中味がうすいに決まっています。

これがさらに、親から子、子から孫へと受け継がれた仕事になりますと、一層光彩を増します。人間国宝と言われる人々の技術は、多くは何代にもわたる努力によって、初めて達成された技術だと思います。

さて、石という字の“厂”は、“雁(がん)だれ”と言って、崖(がけ)の意味をもったものです。石の“口”の部分が形を表わしていますが、これだけでは“くち”と区別できませんので、崖を加えたものです。

広く平らな所を“原っぱ”とか“野原”と言いますが、中国の古い使い方では、低くて平らな土地を“野(平野)”と言い、高くて平らな土地を“原(高原)”と言って区別しています。“厂”の“ノ”が崖で、“一”は崖の上の平らな所を表わしているからです。

穿という字は、牙(きば)を突き通して穴を空けることを表わした字です。“突”“空”の“宀”は“穴(あな)かんむり”と言って、“穴”の意味を表わします。突は“不意をつく”意味の字ですが、それは穴の中の犬がいきなりとび出すことでこれを表わしたものです。

空は“穴をあける”という意味の字です。穴は“からっぽ”ですから、“から”という意味に使われるようになり、“何もない”ということで“そら”を表わすことにもなりました。

“家・客・室・宮・宿”の“宀”は“宇(ウ)かんむり”と言って、家の意味を表わしたものです。“穿・空・突・窓・究”などの穴かんむりを宇かんむりと間違える人がよくあります。意味が穴と家と違うことをよく理解して下さい(窓は採光と通風のために壁に空けた穴のことです)。

雁だれによく似たものに“广”(麻だれ)があります。企のように、片方が開放された家を表わしたものです。店や庫や庁などがこれです。庫は車庫を表わした字ですが、車に限らず、物を入れる建物(倉庫)の意味に使われるようになりしました(金庫は“金ぐら”ということで、初めは建物でした)。